

第1次

第1時

本時の
目標

範読を聞き、「といをもとう」に対する最初の考えを書くことができる。
また、交流した考えを基に学習計画を立て、今後の学習の見通しをもつことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 題名とP21のリード文を基に、物語の内容を想像する。 2 範読を聞き、「といをもとう」に対する最初の考えを書く。 3 最初の考えを基に、単元の学習計画を立て、学習の見通しをもつ。	「春風をたどって」という題名と、P21の文章から、どんな内容の物語だと思えますか。 ○ 題名とリード文から自由に想像を広げ、物語を読む期待感を膨らませたい。 ○ 表紙の絵にも注目するように促すとよい。 まず、P32の「といをもとう」を読みましよう。物語を読み終わったら、「といをもとう」に書いてある二つの質問について考えましよう。 ○ 物語の最後のルウの気持ちと、その後のルウについて、簡単に考えを書くように伝える。 ○ 児童の考えを見取り、学習計画につながるような記述を押さえる。 考えを発表ましよう。そして、みんなの考えを基にして、この学習の計画を立てましよう。 ○ 児童の考えをまとめながら板書し、ルウの気持ちの変化を捉えること、この先のルウの暮らしを想像することの二点を中心とした学習計画を共通理解できるようにする。 ○ 学習計画は、常に確認できるように掲示する。	○ りすのルウが行ってみたい場所に、春風が連れて行ってくれる物語かもしれない。 ○ ルウが、春風をたどって冒険するお話かもしれない。 ○ ルウが春風に「連れて行って」とお願いしたのかも。 ○ ルウは最初、暗い気持ちだったけれど、最後は明るい気持ちになったと思う。 ○ ルウは自分の住む森が好きになったんじゃないかな。 ○ 森だけでなく、花畑を見つけてくれたノノンへの気持ちも変わった。ノノンのことを見直した。 ○ 写真のようなすてきな景色を探しに出かけたはずだ。 ○ まずは、四つの場面ごとに、住んでいる森とノノンへのルウの気持ちを確かめよう。 ○ ルウの気持ちが変わったら、この先どのように暮らしていくか想像するのだな。物語の続きを書いて、みんなで読み合ってみよう。 ● 児童の記述や発言の中で、本文の難語句（例えば、「たどる」など）が出てきたら、全体で意味を確認する。

第2次

第2時

本時の
目標

見慣れた森に対するルウの気持ちを、行動や発話などの叙述を基に捉えることができる。また、気持ちを表す語句の量を増し、発言や記述に使うことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 学習課題を確認し、第一場面を読んで、ルウがしたことや言ったことに線を引く。 2 線を引いたところを基に、見慣れた森に対するルウの気持ちを書く。 3 書いたものを共有し、第一場面のルウの気持ちをまとめる。 4 学習を振り返る。	今日は、第一場面のルウの気持ちを考えましょう。文章を読み、ルウがしたことや言ったことに線を引きましょう。 ○ルウがしたことや言ったことに青線を引くように伝える。 ○まずは、多くの文に線を引くことを重視する。 線を引いたところを基に、見慣れた森に対するルウの気持ちを考え、ノートに書きましょう。 ○「こんな森、きらいだ。」など吹き出しでルウの気持ちを書いてもよいし、「あきれる」「ふきげん」など気持ちを表す言葉で表してもよい。 線を引いたところと、そこから分かるルウの気持ちを全員でまとめましょう。どこに線を引き、どんな気持ちが分かりましたか。 ○線を引いた叙述と、ルウの森に対する気持ちを結び付けながら板書するとよい。 ○ルウの気持ちを一つにまとめる必要はない。 今日の学習を振り返りましょう。 ○P 33「ふりかえろう」の項目を参考にする。	【C】「ルウは、ふさふさしたしっぽをたいくつそうにゆらしながら、……」は、ルウがしたことだから、青線を引こう。 【C】「旅に出たいなあ。」や「それにくらべて、この森のけしきってさ、ぜんぜんわくわくしないよね。」は、ルウが言ったことだから、ここも青線を引こう。 【C】P 22の8行目に「たいくつそう」と書いてあるので、ルウはたいくつだったと思います。 【C】私は、P 23の7行目の「見なれたけしきをながめて、……」という文から、ルウは「こんな森、早く出て行きたい。」と思っていると考えました。 【C】P 23の12行目の「それでもぼくは、……」というルウの言葉から、張り切っている感じが伝わります。 【C】P 22の2行目に「りすのルウは、さいきん、そんなことばかり言っています。」とあるから、ルウは毎日いらいらしていたのだと思います。 ●さまざまな気持ちを抱いていたことを共通理解する。 【C】今日は、ルウがしたことや言ったことからいろいろな気持ちが分かった。次の場面はどんな気持ちなのかな。

第2次

第3時

本時の
目標

ノノンに対するルウの気持ちを、行動や発話、心内語などの叙述を基に捉えることができる。また、気持ちを表す語句の量を増し、発言や記述に使うことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 学習課題を確認し、第二場面を読んで、ルウがしたことや思ったことに線を引く。 2 線を引いたところを基に、ノノンに対するルウの気持ちを書く。 3 書いたものを共有し、第二場面のルウの気持ちをまとめる。 4 学習を振り返る。	今日は第二場面です。ノノンに対するルウの気持ちを考えましょう。文章を読み、ルウがしたことや思ったことに線を引きましょう。 ○ルウがしたことや言ったこと、ノノンに対して思ったことに赤線を引くように伝える。 線を引いたところを基に、ノノンに対するルウの気持ちを考え、ノートに書きましょう。 ○P16「言葉のたから箱」や同ページ内の二次元コードを参考に、気持ちを表す言葉を積極的に用いるよう促し、表出する言葉を増やしたい。 引いた線と、そこから分かるルウの気持ちを全員でまとめましょう。どこに線を引き、どんな気持ちが分かりましたか。 ○線を引いた叙述と、ノノンに対するルウの気持ちを結び付けながら板書をするときよい。 ○ルウの気持ちの変化を共通理解できるように、変化した気持ちを矢印で結ぶなど工夫する。 今日の学習を振り返りましょう。 ○P33「ふりかえろう」の項目を参考にする。	〔C〕P26の10行目の「ノノンは、こんなにかすかなに思いに気づいてたんだ。」は、ルウが言ったことではなくて、思ったことだ。ここには赤線を引こう。 〔C〕P26の12行目の「ルウはびっくりして、ノノンのせなかを見つめました。」は、ルウがしたことだから赤線だ。 〔C〕P24の12行目に「声をかけづらい」とあるから、苦手だと感じていたと思う。 〔C〕P25の12行目に「首をかしげました」と書いてある。「本当に？」と、ノノンのことを疑っていると思う。 〔C〕P26の4行目で、少し迷ってからノノンのあとをついていっている。まだノノンを信じていないと思う。 〔C〕この場面の終わりでは、P26の12行目からルウの気持ちが変わったと思う。 〔C〕仲よしでもなく、ノノンのことを疑っていたけれど、ルウはすてきなにおいに気づいて、ノノンを見直した。 〔C〕最後に「ルウが知っているいつものノノンとはべつなのよ」と思っているから、気持ちが変ったんだ。 〔C〕ルウのしたことや思ったことから、ノノンに対する気持ちが、第二場面の中で変わったことが分かった。

第2次

第4時

本時の
目標

見慣れた森とノノンに対するルウの気持ちを、行動や発話、場面の様子などの叙述を基に捉えることができる。また、気持ちを表す語句の量を増し、発言や記述に使うことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 学習課題を確認し、第三場面を読んで、ルウがしたことや言ったこと、思ったことに線を引く。 2 線を引いたところを基に、森とノノンに対するルウの気持ちを書く。 3 書いたものを共有し、第三場面のルウの気持ちをまとめる。 4 学習を振り返る。	今日は第三場面です。森とノノンに対するルウの気持ちを考えましょう。文章を読み、ルウがしたことや思ったことに線を引きましょう。 ○森に対するルウの気持ちが分かる文には青線、ノノンに対する気持ちが分かる文には赤線を引くように伝える。 線を引いたところを基に、森とノノンに対するルウの気持ちを考え、ノートに書きましょう。 ○この場面は、ルウのしたことや言ったことだけでなく、様子を表す文からもルウの森に対する気持ちを理解することができる。二度出てくる「すごいや。」という表現に注目したい。 線を引いたところと、そこから分かるルウの気持ちを全員でまとめましょう。どこに線を引き、どんな気持ちが分かりましたか。 ○森に対するルウの気持ちと、ノノンに対するルウの気持ちを区別して板書するとよい。 ○ルウの気持ちの変化を明確に示したい。 今日の学習を振り返りましょう。	【C】「あざやかな青い色が、ルウの目にとびこんできました。」という文から、ルウがびっくりしているのが分かる。 【C】P 28の4行目の「ルウの口から、ほう、とためいきがこぼれました。」という文に青線を引こう。 【C】P 28の10～13行目には、赤線を引いたほうがいいな。 【C】「うん。また話そう。」にも赤線を引こう。 【C】「ほう、とためいきがこぼれました。」や「すごいや。」という文から、ルウは景色に引きつけられていると思う。 【C】「さわやかな花のかおりにつつまれて、ゆったりと時がながれていきました。」や「やわらかな春風が、花たちとルウの毛を、さわさわとなでていきます。」という文から、ルウは気分がよくて、幸せそうだなと思った。 【C】「ルウのしっぽは、いつのまにか、ゆるゆらとおどるようにゆれていきます。」という文から感動が伝わってくる。 【C】ノノンもその景色に感動しているから、「うっとり」と花ばたけに見とれています。」と書かれているね。 【C】P 28の「すごいや。」は森に対してだけれど、P 29の「すごいや。」は、ルウに対してだね。 【C】ルウの気持ちの変化がたくさん文から分かった。

第2次

第5時

本時の
目標

見慣れた森とノノンに対するルウの気持ちを、行動や心内語、場面の様子などの叙述を基に捉えることができる。また、気持ちを表す語句の量を増し、発言や記述に使うことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 学習課題を確認し、第四場面を読んで、ルウがしたことや思ったことに線を引く。 2 線を引いたところを基に、森とノノンに対するルウの気持ちを書く。 3 書いたものを共有し、第四場面のルウの気持ちをまとめる。 4 学習を振り返る。	今日は第四場面です。森とノノンに対するルウの気持ちを考えましょう。文章を読み、ルウがしたことや思ったことに線を引きましょう。 ○第4時と同じように、森に対するルウの気持ちが分かる文には青線、ノノンに対する気持ちが分かる文には赤線を引くように伝える。 線を引いたところを基に、森とノノンに対するルウの気持ちを考え、ノートに書きましょう。 ○ルウの行動や思ったことから気持ちを考えるのはもちろんのこと、最後の一文や挿絵などからもルウの気持ちを捉えさせたい。 線を引いたところと、そこから分かるルウの気持ちを全員でまとめましょう。どこに線を引き、どんな気持ちが分かりましたか。 ○「ルウはふと思いました。」という箇所からルウの気持ちはさらに変化する。短い場面だからこそ、細かな表現に着目するように促したい。 今日の学習を振り返りましょう。 ○P 33「ふりかえろう」の項目を参考にする。	【C】「ぼつりとつぶやいて」という言葉に青線を引こう。 【C】P 31の3行目の「そうだ。ぼくの知らないすてきなばしょが、ほかにもまだ、近くにあるかもしれない。」という文からも気持ちが分かるから、青線が引けそうだな。 【C】「ノノンをさそって、いっしょにさがしてみることしよう。」からノノンへの気持ちが分かる。赤線だ。 【C】「ノノンといっしょなら、またあの花ばたけみたいないしきを、見つけられそうな気がするから。」という文から、ノノンのことを頼りにし、心が近づいたのが分かる。 【C】「わくわくしながら」と書いてある。ルウは、自分が住んでいる森への気持ちがすごく変わった。 【C】「花ばたけからついてきたさわやかなおりが、ふわりとルウのはなをくすぐりました。」という最後の文から、ルウが温かな気持ちで寝ているのが分かるよ。 【C】「ルウはふと思いました。」ということは、そこまでは考えていなかったんだね。よいことを思いいついたから、温かな気持ちで満足して寝ることができたんだ。 【C】場面の様子を表す言葉に注目できるようにした。 【C】次の時間は、ルウの気持ちの変化をまとめたいな。

第2次

第6時

本時の
目標

物語全体の展開や、森とノノンに対するルウの気持ちの変化を意識しながら音読することができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 初発の考えを思い出す。 2 森とノノンに対するルウの気持ちがどのように変化したのか、考えを書き、交流する。 3 ルウの気持ちの変化を意識しながら音読する。 4 学習を振り返る。	P 32の「といをもとう」を確認します。最初に書いた考えを読み返し、今の考えと比べましょう。 森とノノンに対するルウの気持ちの変化をノートにまとめ、交流しましょう。 ○森とノノンに対する気持ちを分けて書く。 ○「最初は○○だったけれど、最後は△△になった。」など、必要に応じて文型を示す。 森やノノンに対するルウの気持ちの変化が感じられるように音読しましょう。 ○音読する場面を全体で統一してもよいし、一人一人の児童が選んでもよい。 ○声の大きさ、速さ、間、抑揚などによる印象の違いを教師が示すと、取り組みやすくなる。 ○「春風」「くすぐる」「しっぱをゆらす」「きらきら」「うつとり」など、繰り返し使われる言葉や場面の様子を表す擬音語・擬態語に着目すると、ルウの気持ちやその変化を表現しやすい。 今日の学習を振り返りましょう。 ○学習計画を基に、次時の見通しをもつ。	○「ノノンへの気持ちが変わった。」という考えは変わっていないけれど、それが分かる文をたくさん見つけられた。 ○ノノンとあまり話したことがなかったのに、ルウから「また話そう。」と言っている。ノノンへのルウの気持ちは大きく変わった。顔見知りではなくて友達になった。 ○最初は「旅に出たいなあ。」と言っていたのに、最後は「近くにあるかも」とすてきな景色を探そうとしている。 ○最初の場面は、ルウの嫌そうな気持ちを表したい。 ○森とノノンに対するルウの気持ちは、マイナスからプラスに変わったから、どんどん明るい声にしたい。 ○森に対して嫌な気持ちの「ためいき」が、うれしい気持ちの「ためいき」に変わっている。音読で表せるかな。 ○「すごいや。」という言葉をやつくり、心を込めて読む。 ○同じ場面を選んでいる友達の見方を知りたいな。 ○○○さんは、最後の「花ばたけからついできたさわやかなかおりが、ふわりとルウのはなをくすぐりました。」という文を、とても優しい声で読んでいて上手だった。 ○ルウの気持ちを音読で表すのが楽しかった。 ○どんな続き話にするか、次の時間までに考えてこよう。

第3次

第7時

本時の
目標

「といをもとつ」を確認し、見慣れた森に対するルウの気持ちの変化や、ノノンとの関係の変化を基に、ルウが次の日からどのように暮らしたかを想像し、続き話を書くことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 「といをもとつ」を確認し、初発の考えを思い出す。 2 ルウが次の日からどのように暮らしたか、思いついたことを出し合う。 3 出合ったアイデアを基に、続き話を書く。	P 32の「といをもとつ」を確認します。最初に書いた考えを読み返し、今の考えと比べましょう。 ○考えが深まったことを実感できるとよい。 ルウが次の日からどのように暮らしたか、思いついたことを発表しましょう。 ○自由にアイデアを出せる雰囲気をつくる。 ○ルウの宝物の写真のことが、P 23に書かれている。まずはそこからアイデアを膨らませるとよい。 ○箇条書きで板書し、参考にできるようにする。 出されたアイデアを参考に、続き話を書きましょう。 ○物語の内容や登場人物の様子など、これまでに学習したことをいかにせるように支援する。 ○ルウとノノンの特徴（性格）を確認すると、二人の行動や会話が想像しやすくなる。 ○第6時で扱ったような、繰り返し使われている言葉を用いると、続き話らしくなる。 ○分量は問わず、何通り書いてもよいこととする。 時間があれば挿絵を描いてもよいだろう。	【C】最初は「写真のようなすてきな景色を探しに出かけた」と書いたけれど、今はもっと詳しく想像できそうだ。 【C】最初は思い浮かばなかった。今はたくさん書けそう。 【C】二人で遠くまで旅をして、本物の雪山や砂漠を見る。 【C】大きな鳥に乗せてもらい、海まで行くのはどうだろう。 【C】森にある、海みたいに青く透き通った湖を見つける。 【C】たくさんさんの白鳥で一面が白くなっている場所に行く。 【C】黄金に輝き、さわやかな香りのするみかん畑に行く。 【C】ノノンが山火事のおいに気づいて、二人で消す。 【C】ルウが美しい景色に出会い、ため息をつく話にする。 【C】ルウとノノンがうつとりする場面を入れたいな。 【C】「夏風」が登場し、ルウをくすぐったらどうだろう。 【C】ノノンが火事のおいに気づいてどんどん進んでいき、火事を消して、さらにノノンを尊敬する話にしよう。 きっとルウは、ノノンに「すごいや。」と言うはずだ。 【C】「ルウとノノンは、きらきらかがやく真つ青なみずうみを見つめました。二人は、うつとりとしながらためいきをつきました。さわやかな夏風がしつぽをくすぐりました。」

第3次

第8時

本時の
目標

続き話を読み合い、おすすめの話を紹介したり、おもしろかったところやよかったところを発表したりすることができる。また、学習全体を振り返り、学んだことをまとめることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 前時で書いた続き話を読み合い、感想を交流する。 2 友達が書いた続き話を紹介したり、読んだ感想を発表したりする。 3 学習全体を振り返る。	続き話を読み合い、おもしろかったところやよいと思ったところを伝えたり、もっと詳しく知りたいことを質問したりしましょう。 ○読み合う前に、読む際の視点を明確にする。 ○実態に応じて読み合う人数や方法を決める。 ○タブレットで続き話を作っている場合には、付箋機能などを使って感想を交流してもよい。 おすすめの続き話を紹介したり、友達の続き話のおもしろかったところやよかったところを発表したりしましょう。 ○それまでの物語の展開にふさわしい内容になっている続き話をたくさん取り上げたい。 ○ルウとノンの特徴（性格）や関係が表れている行動や会話を確認するのも有効である。 ○物語の中で繰り返し使われている言葉を、続き話でも用いていた場合には、価値づけたい。 「春風をたどって」の学習を振り返ります。 ○P 33「ふりかえろう」とP 34「たいせつ」の観点を基に、自らの学習を振り返るようにする。	● 続き話を読み合う目的を共有してから活動に移る。 ○ 思いっぴな話ばかり。もっとたくさん読みたい。 ○ 自分が住む森をルウがさらに好きになるのいいね。 ○ ルウとノンは、どうやって湖を見つけたのかな。 ○ ○さんの、鳥に乗せてもらい、本物の海や砂漠を見に行くお話がよかったです。ルウがうれしそうでした。 ○ ○さんの、ノンがすっぱいにおいに気づいて、黄金に輝くみかん畑を見つけたお話は、本当にありそうです。 ○ ノンは鼻だけでなく、耳もすごくよくて、遠くから聞こえる白鳥たちの鳴き声に気づいたのがすごかった。 ○ ○さんのお話では、ルウとノンが、二人で「ほう」とため息をついていて、言葉の使い方が上手でした。 ○ 「うっとり」と言う言葉を使っている人もいました。 ○ 何度も出てくる言葉が大切だと分かりました。 ○ 次に物語を読むときも、登場人物の行動や会話、場面の様子から、登場人物の気持ちを考えてみたいです。

登場人物の行動と気持ちを捉える

中学年では、「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」や「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること」を目指す。そして、本単元では、登場人物の行動や気持ちを捉えることを主たる目標としている。登場人物の気持ちは、行動や発話、心内語、場面の様子などから捉えることができる。中心人物ルウの、見慣れた森とノンへの気持ちを場面ごとに捉えるよう学習を進めたい。

表現を比較する

ルウの気持ちが捉えられる代表的な行動として、「ためいき」が挙げられる。最初の場面では、「見なれたけしきをながめて、ルウはためいきをつきます。」と書かれている。それが第三場面になると、「ルウの口から、ほう、とためいきがこぼれました。」と変化する。「ためいき」という行動を通して、ルウの気持ちがマイナスからプラスに変化したことが分かる。同じように、最初の場面では、「ルウは、ふさふさしたしっぽをたいくつそうにゆらしながら、たから物のことを思い出していました。」と書かれていたのが、第三場面になると、「ルウのしっぽは、いつのまにか、ゆらゆらとおどるようにゆれています。」と記され、しっぽの揺らし方からもルウの気持ちの変化が感じ取れる。

他にも、「声をかけづらい」と思っていたノンに、ルウのほうから「うん。また話そう。」と言う、「すごいや。」

が対象を変えて使われている、「春風」「くすぐる」「きらきら」など複数回登場する言葉があるなどに着目し、表現を比較すると、ルウの気持ちに迫ることができよう。

気持ちを表す語句の量を増やし、使う

本単元では、気持ちを表す語句を増やして使うことも目標の一つとしている。ルウの行動や発話に着目できても、そこから導き出される気持ちを表現する語句をもっていないければ、自らの考えを伝えることはできない。P161「言葉のたから箱」に載っている気持ちを表す言葉をはじめとし、プラスの気持ちやマイナスな気持ちを表す言葉を児童に提示し、多くの語句から選べる環境を整えたい。

言語活動の個別最適化

ルウの気持ちを捉えた児童が、その学びをいかす言語活動として、続き話を書く活動を設定している。あくまで「読むこと」の学習の延長線上の活動なので、書く分量などにこだわる必要はない。物語の内容や登場人物の特徴など、これまでに学習したことをいかしたり、文章中に繰り返し出てくる言葉を積極的に用いたりしている姿を褒めたい。

このような活動に苦手意識を抱く児童もいるだろう。ある程度のあらすじを示し選択できるようにしたり、続き話の大体は書いておき会話文のみ創作したりすることも考えられる。個別最適な学びを意図し、ルウやノンに手紙を書くなど他の言語活動に取り組む児童がいてもよいだろう。